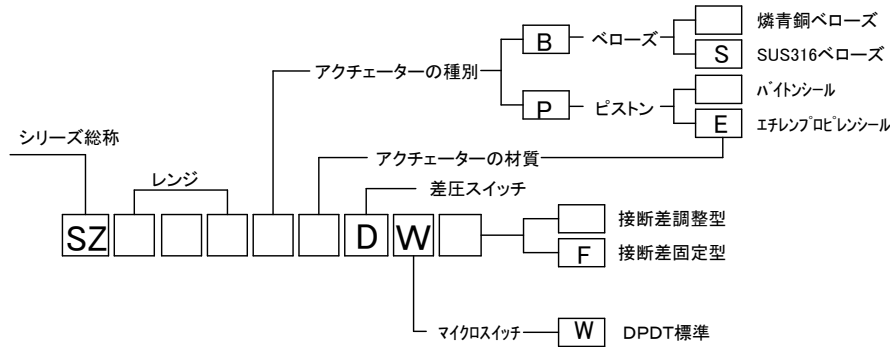


(1) 型式・仕様の確認

SZ(DPDT)差圧スイッチの型式は下表に従って表示されています。型式および仕様の確認をして下さい。



レンジ:

要求設定圧力がレンジの範囲に入っているかどうか確認してください。SZ差圧スイッチでは、高圧側受圧部と低圧側受圧部の圧力差 ($H_p - L_p \geq 0$) をレンジで表示し、差圧調整範囲は、圧力差が小さくなる時の動作圧力で表示しています。要求設定圧力の下限の値が差圧調整範囲に入っているか、確認してください。

接断差調整範囲:

要求設定圧力の上・下限の幅が差圧調整範囲内に入っているか、確認してください。

レンジ (RANGE)・差圧調整範囲 (DIFF'L)・耐圧力 (MAX.ALLOW.PRESSURE) は銘板に記載されています。

定格圧力:

ベローズ型においては、システム圧力 (常用圧力) が定格圧力を超えないようにご使用ください。特に要求設定値がレンジの下限または上限に接近している場合は、定格圧力を再確認してください。

耐圧力:

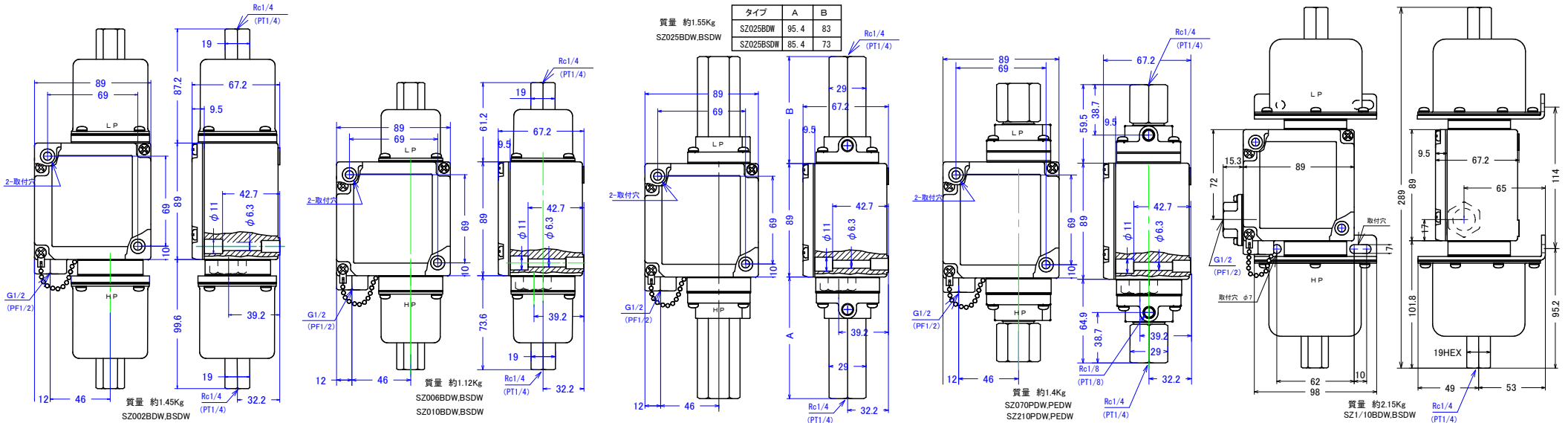
耐圧力は性能の低下をすることなく一定時間印加できる試験圧力です。常時、あるいは頻繁に印加できる圧力ではありません。サージ圧や、脈動のような瞬間的な圧力でも、耐圧力を超える圧力が瞬間的にも印加されるとベローズの寿命は著しく低下します。従って、特にベローズ型を油圧回路に使用する場合は、サージ圧や脈動対策を施し、十分耐圧力の高い型式を選定するようにご配慮ください。

(2) 取付

SZ圧カスイッチは、本体を2ヶ所の取付穴で固定してください。圧力配管のみで支持することはできません。SZ1/10BDW, SZ1/10BSDWは、垂直 (上) でご使用ください。微圧のためベローズの自重が動作に影響します。

(3) 配管

SZ圧カスイッチの圧力配管ポートは $R_{c1/4}$ (PT1/4) です。配管をする場合は、受圧部の六角部にスパナ掛けをして、圧カスイッチの本体に力が加わらないようにしてください。



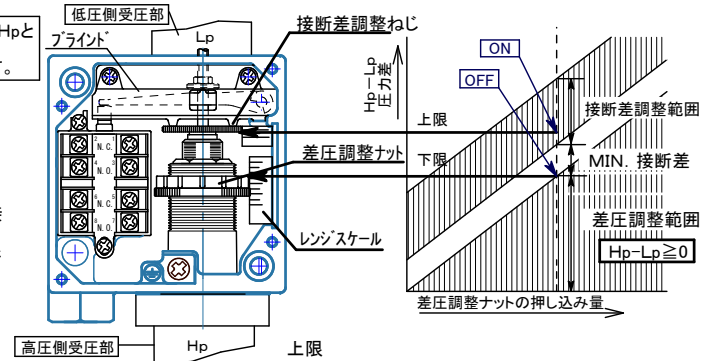
(4) 設定

SZ (DPDT) 差圧スイッチはすべて一定圧力に設定されて出荷されています。その設定圧力は本体側面の設定ラベルに表示してあります。要求設定値と異なる場合は次のように再設定してください。

低圧側受圧部は L_p 、高圧側受圧部は H_p と表示してあります。常に $H_p - L_p \geq 0$ である必要があります。

高圧側と低圧側の圧力差が縮小するときの動作圧力は、差圧調整ナットで設定します。

差圧が拡大するときの動作圧力は、接断差調整ねじで設定し、接断差調整をしても、差圧調整ナットで設定した下限圧力は影響されません。



- 要求設定値の下限 (高圧側と低圧側の圧力の差が縮小するときの動作圧力) を差圧調整ナットで設定します。差圧調整ナットの上面のレンジスケールの指示する値が、下限動作圧力の目安です。

すから緩むことはありません。接断差調整ねじは、過度に緩めて外れないようプラントのつめがストッパーになっています。

無理に緩め過ぎないでください。

差圧調整ナットは、スロットにマイナスドライバーを差し込んで回します。スロットの幅に合ったマイナスドライバーを使用しないとスロットを壊すこととなりますので十分ご注意ください。

差圧を最小でご使用になる場合は、接断差調整ねじの上面がプラントの爪に少し当たっている状態にセットしてご使用ください。

プラントは絶対に外さないでください。

- 要求設定値の上限 (高圧側と低圧側の圧力の差が拡大するときの動作圧力) を接断差調整ねじで設定します。

3 接断差固定型 (型式記号:F)

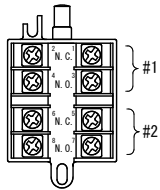
接断差固定型は、接断差調整できません。上、下限動作値のどちらか基準になる方を差圧調整ナットで設定します。

接断差調整ねじは指で回します。板バネでロックされていま

! ドレン配管
ピストンタイプはシールドピストン方式ですので通常ドレン配管は不要ですが、一定期間使用すると滲み出し程度の流体の浸出が発生する場合があります。微量の流体の浸出も許可されない環境においてはあらかじめドレン配管をして御使用下さい。ドレン配管は $R_{c1/8}$ (PT1/8)、許容背圧は 0.1MPa 以下とし、できるだけ大気圧に開放してください。

(5) 配線

DPDTマイクロスイッチの接点構成は下図のようにマイクロスイッチに表示されています。



配線用特殊圧着端子”ニチフFT-1-3”8ヶを付属品として同封しています。
圧着工具は下記のものをお使いください。
ニチフ NH-20(旗型圧着端子用)
#1と#2は電氣的に完全に独立していますが、同列側は同相に配線してください。

型式の末尾に-X25,-X27,-X28の付くタイプは同封の配線方法により配線してください。



必ずアース端子を接地してご使用ください。
感電する危険があります。

(6) マイクロスイッチの電気定格

DPDT標準容量

接点構成 DPDT	電圧 V	抵抗負荷		ランプ負荷		誘導負荷		電動機負荷		右側コモンを形成 してあります。
		N.C./N.O.	N.C./N.O.	N.C./N.O.	N.C./N.O.	N.C./N.O.	N.C./N.O.			
	AC 125	5A	2A	4A	3A					
	250	3	1	2	1.5					
	480	1.5	0.5	1	0.8					
	600	1	0.4	0.7	0.5					
	DC 8	-	-	-	-					
	14	5	2	4	3					
	30	3.4	1	2	1.5					
	125	0.4	0.1	0.4	0.1					
	250	0.2	0.05	0.2	0.05					

銘板上の容量表示
ELECTRICAL CONTACT RATINGS
AC 125V-5A, 250V-3A
DC 125V-0.4A, 250V-0.2A

接点構成
-X25
-X27
-X28

(7) 使用条件・その他の性能

使用周囲温度：-20～+80℃(ただし氷結しないこと。)
接液部許容温度：燐青銅ペローズ：-40～+125℃(ただし氷結しないこと。)
SUS316ステンレスペローズ：-40～+250℃(ただし氷結しないこと。)
ピストンアクチュエーター：-20～+120℃(ただし氷結しないこと。)
許容動作頻度：120回/分
絶縁抵抗：非連続端子間および各端子と非充電金属部間
100M以上(DC500Vメガオームにて)
耐電圧：非連続端子間 AC1000V 50/60Hz 1分間
各端子と非充電金属部間、アース間 AC2200V 50/60Hz 1分間
受圧部オリフィス：ペローズアクチュエーター：1.5φ
ピストンアクチュエーター：1φ
保護等級：IP65

太平貿易株式会社

本社：〒103-0023東京都中央区日本橋本町2-2-2
TEL03-3270-4821 FAX03-3245-1767
名古屋支店：〒460-0008名古屋市中区栄4-15-32 日建・住生ビル
TEL052-261-5571 FAX052-261-2017
大阪支店：〒530-0037大阪市北区松ヶ枝町1-3 サンセンタービル
TEL06-6355-2701 FAX06-6355-2706
福山営業所：〒720-0067福山市西町2-10-1 福山商工会議所ビル
TEL084-925-3067 FAX084-931-9331
九州営業所：〒802-0005北九州市小倉北区堺町1-1-1JTB小倉ビル
TEL093-511-2802 FAX093-511-5904

製造 太平システム工業株式会社